

# 外科医が取り組む 薬局改革

## 在宅療養支援薬局研究会活動レポート(23)

◆狭間研至  
昭和44年大阪生まれ。平成7年大阪大学医学部卒業後、同付属病院、大阪府立病院(現大阪府立急性期総合医療センター)などを経て、12年大阪大学大学院医学系研究科臓器制御外科(博士課程)に入学し、16年同課程修了。医師・医学博士・外科専門医・呼吸器外科専門医。15年4月から「ハザマ薬局」を運営するファルメディコ(株)代表取締役に就任し、実家の薬局経営を受け継ぐ形で医師の立場からの意欲的な薬局経営に乗り出すとともに、20年4月には有限中間責任法人「薬剤師あゆみの会」理事長も務めるなど多方面で精力的に活躍中。



### はじめに

みなさん、こんにちは。狭間研至です。夏本番を迎えいかがお過ごしでしょうか。先般の本連載でもお伝えしましたが、本会では7月の15、16日の両日、大阪のテーマパークすく近くのホテルで第5回シンポジウムを開催しました。今回はその模様について、主催者の思いも交えてお伝えしたいと思います。

## 350人の参加者を迎え盛大に濃い内容の講演でフロア熱く

# 日本在宅薬学会へ名称変更しさらなる活動充実へ

総合司会は、帝京平成大学准教授の井手口直子先生にお願いしました。先生はなんと和装で臨まれ、気合い十分。ご参加のみなさんの期待も一層高まったのではないかと思います。

そんな雰囲気の中で、最初のオープニングは私からお話しをさせていただきました。本会の活動書も出されていますが、菅野先生はいくつも著書も出されていますが、菅野先生のお話になんとか通る方ばかりで、本会が取り組んで来たバイタルサイン

### 一つの特別講演

続いて合資会社どんぐり工房代表の菅野強先生(有)くろしお薬局代表取締役副社長の川添哲嗣先生にそれぞれ特別講演を担当していただきました。菅野先生は「薬物動態学の基礎と応用」と題して、初学者にもわかりやすくお話しされた。私自身も医学部時代の薬理の知識を必死で思い出しながら、菅野先生のお話になんとか通る方ばかりで、本会が取り組んで来たバイタルサイン



懇親会には日薬・児玉会長(上)はじめ様々な立場から薬剤師へメッセージが贈られた



### オープニング

私は11時過ぎに会場に入ったのですが、13時スタートにもかかわらず20名ほどの参加者がホテルのロビーでお待ち状態でした。12時からの受付開始後は途切れることなく受付にご参加のみなさんがいらしゃり、13時には300名の席がほぼ埋まった状態でスタートしました。



柱としてきた「薬剤師のためのバイタルサイン講習会」について、118名の受講生をお迎えしました。これは、設立から2年あまりが経過し、在宅療

### 顧問代表からのメッセージ

本会は外部有識者として大学の先生にご依頼をしておりますが、その代表をお願いしているのが松田陣・兵庫医療大学学長の長です。松田先生は私の大阪大職の育成にあたってお

## 連携進み病院・大学の薬剤師など参加者の広がりも

できたことなど、私自身も驚くような盛り上がりがあることをみなさんと共有したあと、地域医療におけるイノベーションをどのように起こすのか、イベーター理論もご紹介しながら、今後の展望についてお話しさせていただきました。また、講演の最後には、本会の名称を「一般社団法人在宅療養支援薬局研究会」から「一般社団法人日本在宅薬学会」に変更することを理由として、更なることをお伝えしました。これは、設立から2年あまりが経過し、在宅療

### 初日の終了に向けて

初日の講演はこれでおしまいでしたが、その後、懇親会が開催されました。懇親会には、ほん

### おわりに

350名を超えるご参加者をお迎えした本シンポジウムの1日目は、熱く語り合う薬剤師の輪がいくつも広がりつつ、無事に終えることができました。2日目の模様は次回にご紹介したいと思います。